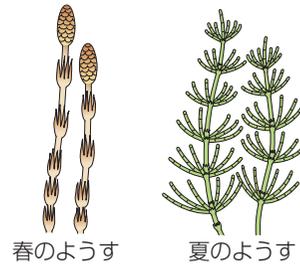


スギナ



スギナは、(1)のなかまです。(2)になると、草むらや道ばたで(3)を飛ばすためのくきをのびしているすがたが見られます。これは「つくし」といわれます。

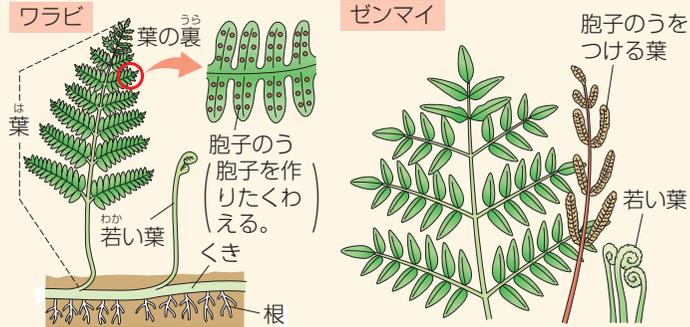
やがてつくしはかれて、(4)になると光合成を行うためのくきがのびます。



春のようす 夏のようす

+プラスワン

シダ植物にはほかに、ワラビやゼンマイなどがあります。それらはしめった場所に生えています。

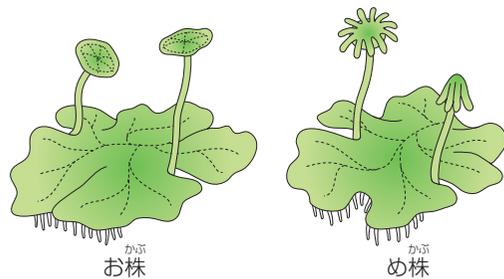


コケ

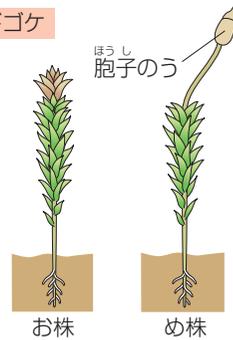


コケは、日当たりが悪くしめった場所に生えています。スギゴケ、ゼニゴケなどさまざまな種類があります。まとめて(5)といわれます。

ゼニゴケ



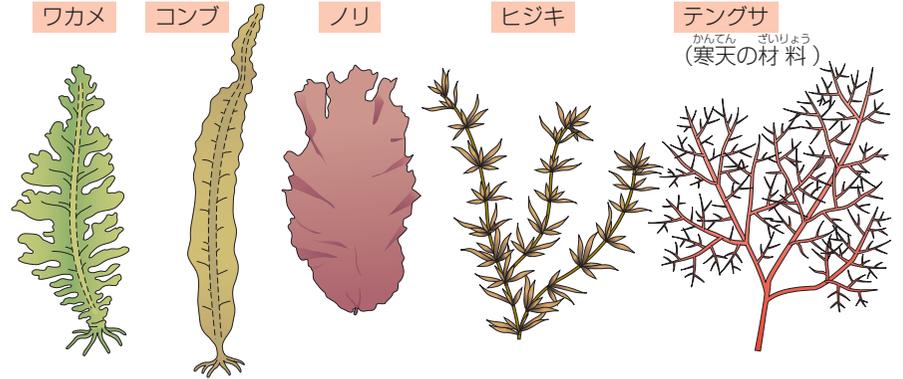
スギゴケ



海そう

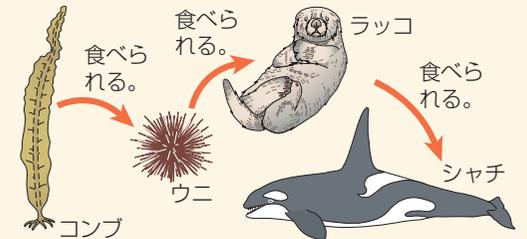


海の中で生活する(6)のなかまは、まとめて海そうとよばれます。海そうの中には、食用とされるものが多くあります。



+プラスワン

海そうは、海の中にすむ動物のえさとなっており、海の生き物同士のつながりに非常に重要です。



海そうは、水の中にとけている二酸化炭素を使って、水の中に届く光のエネルギーで(7)を行います。また、水の中にとけた酸素を使って(8)します。

+プラスワン

海そうの中には、緑色のものや赤色っぽいもの、茶色っぽいものがあります。緑色のもの以外も、光合成を行うことができます。

被子植物 双子葉類

被子植物 単子葉類

裸子植物のなかま

種子でふえない植物のなかま

被子植物 双子葉類

被子植物 単子葉類

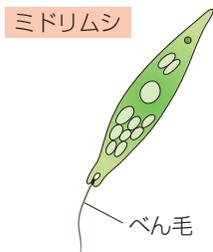
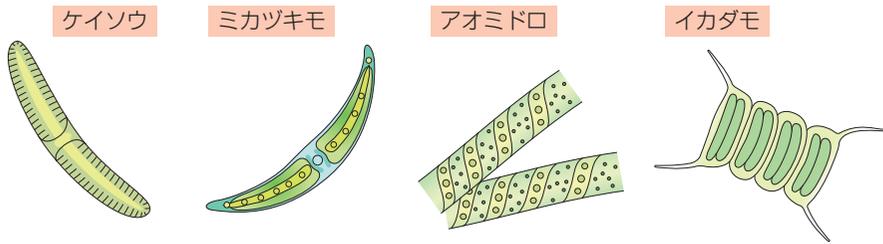
裸子植物のなかま

種子でふえない植物のなかま

植物プランクトン



植物プランクトンは、水の中にすむ小さな生き物です。植物プランクトンの多くはソウ類に分類されます。

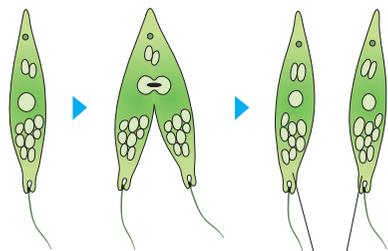


+プラスワン

ミドリムシは、光合成を行い自分で養分を作ることができますが、べん毛で動くことができるので、植物と動物の両方の性質をもつ生き物と分類されることがあります。

植物プランクトンは、水の中にとけている二酸化炭素を使って、水の中に届く光のエネルギーで(9)を行います。また、水の中にとけた酸素を使って(10)します。

植物プランクトンは、おもに(11)でふえます。



同じものが2つできる。

菌類 (植物ではない)



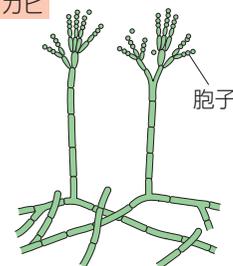
菌類は、光合成を行わず、自分で養分を作ることはいないため、植物ではありません。ほかの生き物のからだや生き物の死がい、ふんなどから養分をとっています。

キノコやカビなどが、菌類に分類されます。菌類のなかまは、(12)でふえます。菌類は、しめり気の多い場所で生育しています。

キノコのなかま



カビ



+プラスワン

キノコやカビは、生き物の死がい、ふんを二酸化炭素やちっ素化合物、水にまで分解するため、「分解者」とよばれます。これに対して、養分を作り出す植物は「生産者」、ほかの生き物を食べる動物は「消費者」とよばれます。